

中医協総会への報告結果について

令和7年8月6日の中医協総会において、入院・外来医療等の調査・評価分科会からこれまでの検討状況（中間とりまとめ）を報告した結果、委員より以下のような意見があった。

<総会で上がった意見>

（入院医療について）

- 高度な手術等の急性期機能を地域の拠点病院に集約していくことは、医療全体の効率化だけでなく、安全性や有効性の観点で患者にもメリットがあり、医療機関にも経営基盤の安定化につながるものであると考えている。今後、どのような治療を拠点病院に集約し、逆にどのような治療を身近な医療機関で対応するのか、より詳細な検討をお願いしたい。
- 急性期入院医療については新たな地域医療構想の検討において、急性期医療に関連する機能として、高齢者救急・地域急性期機能、急性期拠点機能、専門等機能が報告されること、包括的な機能を担う入院医療については、急性期一般入院料、地域包括ケア病棟、地域包括医療病棟との違い、役割分担を踏まえ、医療機関が担う機能や患者の病態像に応じた機能分化が更に進むように検討を進めていただきたい。

（入退院支援について）

- 入退院支援について、令和6年度改定では入退院支援における関係機関と連携強化の観点から介護サービス事業者及び障害福祉サービス事業所等との連携を一定程度求める改定が行われた。記載されている今後の検討の方向性に加え、障害福祉サービス等事業者との連携についても検討を進めていただきたい。

（救急医療について）

- 下り搬送の受入れに対する評価の在り方を検討することは否定しないが、現行でも評価しているということは、事実としてしっかり認識すべき。その上で、直接の救急搬送と下り搬送で、患者の状態や医療資源の投入量にどのような違いがあるのか、実態を丁寧に見る必要がある。

（外来医療について）

- 「かかりつけ医機能」について、1号機能、2号機能それぞれに、診療

報酬で評価する場合に、どのようなことを留意する必要があるのか、技術的な観点で、検討を進めていただきたい。

(その他個別事項について)

- 働き方・タスクシフト／シェアについて、医療職一人一人が専門性を十分に発揮できるよう、タスクシフト／シェアや医療機関の経営と効率化に資する ICT の活用を促進し、業務負担の軽減を更に進めることが重要。看護職員の業務負担軽減に向けて、夜勤が可能な職員の確保や夜勤者の負担軽減が非常に大きな課題であり、検討を進めていただきたい。